

クマツヅラ *Verbena officinalis* Linn. およびヒメウキクサ *Landoltia punctata*
(G.Mey.) D.H.Les et D.J.Crawford の長野県内新産地について

井浦 和子*

はじめに

長野県内で確認記録の少ないクマツヅラとヒメウキクサを確認したので報告する。標本は安曇野市豊科郷土博物館に寄贈した。

1. クマツヅラ *Verbena officinalis* Linn.
(クマツヅラ科) 写真1、2

安曇野市平野部の未舗装の道脇で、開花している1株を確認した。周辺はエゾノギシギシ、マメゲンバイナズナ、ヒメジョオンなどの外来植物が多い草地であった。

長野県内では安曇野市明科龍門湖公園で確認された記録があり(清水編 2012)、安曇野市版レッドデータブック(2014)で絶滅危惧Ⅰ類に記載されている。

安曇野市明科で採取された標本(松田 個人)および、信州大学自然科学館所蔵の標本と比較し、クマツヅラとした。しかし、西日本の自然度の高い草地には、今回確認されたものより、花や茎、葉など全体にひとまわり大きく、枝分かれも少ない集団がある(藤田私信)とのことで、今後検討が必要と考えられる。

標本：安曇野市穂高 527 m 2016年9月26日
豊科郷土博物館 10093・IUR160926-01(個人)

2. ヒメウキクサ *Landoltia punctata* (G.Mey.) D.H.Les et D.J.Crawford (サトイモ科) 写真3～5

4月に湧水の入るワサビ田跡の水たまりで、水面を覆うように繁茂している見慣れないウキクサ類を見つけた。アオウキクサよりやや小さい葉状体で、裏面が紫色であった。はじめ安曇野市で確認記録のあるムラサキコウキクサ(清水編 1999)ではないかと思ったが、根が2本以上ある個体があるのを確認し、ヒメウキクサとした。5月と9月にも同じ場



写真1. クマツヅラ花序 2017/9/3

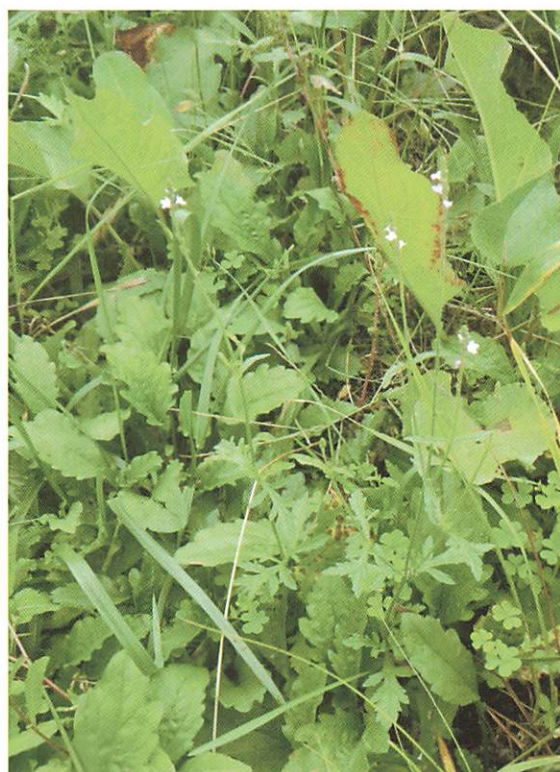


写真2. クマツヅラ全体 2016/9/28

* 井浦 和子 〒382-0831 長野県上高井郡高山村高井 2866

所で確認し、標本を採取した。

長野県内では 1984 年の根羽村の記録があり（長野県植物誌資料集作成委員会 2005）、長野県版レッドリスト（2014）で絶滅危惧種 I A 類に記載されている。

ヒメウキクサは、国内では本州・四国・九州に、国外ではオーストラリア・アフリカ南部・東アジアに分布し、全大陸で野生化している（角野 2014）。国内のものは、外来種とする見解もあるが、自然分布であろうとしている（角野 2014）。

今回の確認場所は、水鳥の飛来地が近くにあり、水鳥によって国内または海外から運ばれてきた可能性も考えられる。

標本：安曇野市穂高 536 m

2017 年 4 月 13 日 豊科郷土博物館 10094・IUR170413-01（個人）

2017 年 5 月 15 日 豊科郷土博物館 10095・IUR170515-01（個人）

2017 年 9 月 3 日 豊科郷土博物館 10096・IUR170903-01（個人）

謝辞

全国的な分布の情報や助言をいただいた長野県植物研究会の藤田淳一氏、個人所蔵の標本を見せていただくなどお世話になった安曇野市豊科郷土博物館の松田貴子氏、信州大学自然科学館の標本閲覧でお世話になった信州大学佐藤利幸氏に心から感謝申し上げます。

引用文献

- 安曇野市（2014）安曇野市版レッドデータブック、安曇野市。
 角野康郎（2014）日本の水草、文一総合出版。
 長野県（2014）長野県版レッドリスト植物編 2014、長野県。
 長野県植物誌資料集作成委員会（2005）CD-ROM 長野県植物誌資料集（普及版）、長野県植物誌資料集作成委員会。
 清水建美 編（1999）長野県植物誌補遺 2、長野県植物会誌第 32 号。
 清水建美 編（2012）長野県植物誌補遺 15、長野県植物会誌第 45 号。



写真 3. ヒメウキクサ 2017/4/13



写真 4. ヒメウキクサ

葉状体の裏面は紫色を帯びる。根は 2～3 本。



写真 5. 水面を覆うように繁茂するヒメウキクサ 2017/9/3